

第四章 近代の安芸

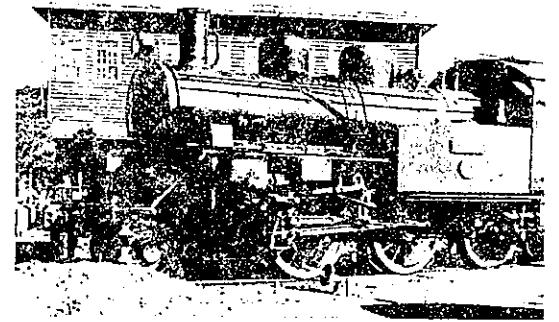
四 道路と交通の今昔

律令制下に国府が置かれると、中央と地方を結ぶ官道が設けられるようになった。土佐への官道は伊予を経由することになっていたが、養老二年（七一八）五月阿波經由に改められ、それを機会に野根山街道が開かれたと伝えられる。古代の土佐には明確な記録がとぼしいが、野根山街道が開かれたとすれば、国府を結ぶ線上に、当然安芸が浮かびあがってくる。近世の例にとれば、阿波の穴喰から土佐の甲浦に達し、野根山街道を経て奈半利に出る。それから田野、安田を過ぎて安芸に着き、手結山を越えて赤岡經由、高知城下に達するのである。高知に城下町が出現しない古代、中世の昔にはこの道が右折して国府に向かったであろう。延暦十五年（七九六）二月には南海道駅路改正の勅が発せられ、やがて立川の駅が設けられていわゆる北山越えが主要な官道になるが、東方甲浦に出る野根山街道は依然としてその重要性が認められ、安芸はその線上の一駅としての地位を失うことはなかった。近世を通じて、家老五藤氏が歴代土居に配置されたのはその政治的に、あるいは警備的要地と考えられたからにほかなるまい。

明治時代を迎えて郡制が施行されると安芸郡役所が置かれ、名実ともに安芸の郡都として位置づけられた。政治、経済、教育の中心となり、したがって交通の要衝としていよいよその位置を高めた。道路の発達と歩調をあわせて交通機関も駕籠から人力車、馬車と変遷し、馬車の立場が出来た。大正期になると自動車が入り、中期以後には乗合自動車、馬車に代わって活躍することになるのである。

鉄道は安芸営林署の森林軌道が開発され、伊尾木から別役に至る奥地の人々に便乗が認められたが、電車

第四章 近代の安芸

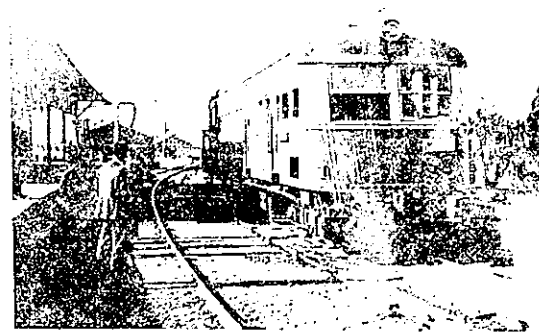


安芸線の汽車

びたのは昭和五年（一九三〇）三月三十一日、翌四月一日には高知駅乗入れに成功、安芸と高知とを直結したのである。

国鉄土讃線が須崎から高松を結んだのは昭和十年（一九三五）九月十日だが、大正十三年（一九二四）十一月十五日にまず須崎と高知線が開通した。高知県民の鉄道敷設を待望することは久しく、大

の便益は昭和期を迎えねばならなかった。電車が高知市に開通したのは明治三十年（一八九七）五月のことで、同四十一年（一九〇八）十二月には西方吾川郡伊野町に延び、同四十四年（一九一九）五月には東方長岡郡後免町に延びた。後免町から東進して香美郡手結と結んだのは大正十三年（一九二四）十二月のことで、電車軌道ではなく汽車鉄道であった。高知鉄道株式会社の経営によるもので、高知鉄道株式会社は土佐電気鉄道会社の後身である。後免手結線は、いうならば土佐電鉄の延長であった。それが安芸に延



安芸線の電車

正九年（一九二〇）一月資本金二百万円をもって町田旦竜を社長とする高知鉄道株式会社が創立されたのもその運動の一つであった。後免と安芸を連結するのを目標としたものだが事業は容易に進捗せず、迂余曲折を経て、前記のごとく大正十三年十二月後免と手結を結んだままで停頓した。事業を継続していた後任社長山本義彦はその窮状を野村茂久馬に訴え、第二期工事として手結、安芸線の着工をはかった。野村は昭和四年（一九二九）一月社長就任を諾し、社の陣容を一新して実務を支配人野老山斉、社長秘書大野武夫に委ね、資金面や工事面にあらゆる苦難を克服しながら翌五年三月三十一日ついに安芸線は完成したのである。その後、高知鉄道は昭和十六年土佐電気から軌道事業の譲渡を受け、土佐バス株式会社が吸収合併して七月十日土佐交通株式会社と改称、野村社長は翌年四月引退して宇田耕一が社長となり、終戦後、昭和二十二年十月土佐電気鉄道株式会社と改称した。同二十四年四月十八日には後免、手結間の軌道が電化に成功、七月二十日に安芸まで全線電化され、安芸と高知との貨客輸送に画期的な貢献を続けた。

だが、この経営は必ずしも順調ではなく、裏面に多くの困難を秘めながら国鉄阿佐線の計画発表を待ち、昭和四十九年その施設を国鉄に売却することになった。多くの利用者に惜しまれながら、やがて完成が予定される阿佐線に発展解消したと考えるべきだろうか。多種多様な道路やそれにとまなう交通機関の変遷については説明の煩雑さを避け、次に表出して参考に供したい。

道路・交通	摘 要
県 道	明治二五年高知、後免、赤岡、安芸、甲浦をへて徳島に至る四国新道計画、同四一年甲浦迄竣工。
郡 道	明治二九年安芸より土居を経由して畑山に至る線と安田―馬路線開通。
森 林 軌 道	明治四三年東川村大井―古井開通、大正四年伊尾木貯木場まで開通。昭和三七年伊尾木川森林軌道廃止。
林 道	昭和二六年畑山橋から中ノ川まで完成。同四六年三月別役関連林道と宝蔵峠を越え連絡。
乗 合 自 動 車	大正三年九月高知以東安芸郡に開通。野村自動車高知、安芸、室戸、甲浦線。丸三は高知、安芸、栃ノ木線開通。
県 交 通	栃ノ木、畑山線（昭和三五年六月二〇日開通） 入河内、古井線（昭和三七年一月二一日開通） 安芸、入河内線（昭和二九年九月十四日開通） 安芸、内原野線（昭和三二年二月二五日開通） 昭和五年三月三一日手結、安芸竣工。四月一日開通。昭和二四年四月二八日電化。
高知鉄道安芸線	昭和四六年二月一〇日安芸駅前―入河内―黒瀬―古井代替輸送開始（安芸市、有限会社、安芸観光バスと委託契約にて運行）。
代 替 輸 送	昭和四三年九月、東川別役、畑山和田まで運行。
僻地患者輸送車 国鉄阿佐線	昭和三六年十一月一二日安芸市役所裏にて起工式。 昭和四〇年四月一日川北県道（入河内線交叉点）―津久茂町間の起工式。